



分子神経科学セミナー

SOD1-Derlin-1 結合を標的とした ALS 治療薬の基盤開発

本間 謙吾

東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室 特任助教

筋萎縮性側索硬化症 (Amyotrophic lateral sclerosis : ALS) は、運動神経細胞の選択的な障害により発症後数年で死に至る重篤な神経変性疾患であるが、いまだ発症機構が十分に解明されていないことから、明確な分子基盤に基づく根本的な治療法は存在していない。家族性 ALS の原因遺伝子のひとつとして *Cu, Zn Superoxide dismutase (SOD1)* がよく知られている。当研究室では、家族性 ALS に関連した変異型 SOD1 が小胞体膜タンパク質 Derlin-1 と特異的に結合することで、小胞体ストレスを介した運動神経細胞死を誘導することを明らかにしてきた。

本セミナーでは、変異型 SOD1 と Derlin-1 の結合を標的とした結合阻害低分子化合物の獲得により示された SOD1-Derlin-1 結合の ALS 病態における重要性と、病態分子機構に基づいた ALS 治療薬の可能性について議論したい。また、一般的に困難であるとされているタンパク質間相互作用阻害剤の獲得経緯についても紹介したい。

日時 平成28年 **8月26日**(金)
17:00~19:00

場所 医学系研究科講義棟
セミナー室 1・2

お問い合わせ

大阪大学大学院 医学系研究科 分子神経科学

山下 俊英 代) 岡村

okamura@molneu.med.osaka-u.ac.jp